

会員数(52.9.1現在)

逗子地区 113名

葉山地区 210名

大船地区 78名

合計 401名

# 吟道月報

日本詩吟学院岳風会認可  
社団法人 神奈川 碩心会 発行

52.9.5

第62号

編集

加藤 冽風

## 「全国大会」合吟

### コンクールに参加

去る九月二十五日(日)に開催された総本部主催の全国吟道大会(於九段会館)合吟コンクールの部に「滝ノ坂支部」より十名参加し、よく健闘した。なお神奈川県より十五名参加した。

### 神奈川県

### 吟道大会の開催

去る十月十六日(日)平塚において神奈川県大会が開催されましたが当碩心会より左記により独吟・合吟に出吟することになった。

独吟(七名) 蒲谷蒼岳(戸塚) 小峰頼風

(堀内) 南部越山(堀内) 白井寿山

(堀内) 佐々木彰山(松和) 森田敏山

(大船B) 松永静山(大船A)

合吟(四子ム) 堀内(B)支部。一色B支部

松和支部。桜山支部

## 私の好きな詩

竹石 憲風

過日広報部長加藤冽風氏とある会合で同席したところ、吟道月に既に広報されておるとおり好きな詩の原稿が一冊を書いて欲しいと依頼され、簡単に引き受けてしまったが、いざ書く役になると数多く好きな詩のある中でどれを書いてよいか迷った。字数、時間も限られておるので、次の詩をあげることにした。

村松文三作「壁に題す」「男子志を立て郷

関を出づ字若し成らずんば死すとも還らず骨  
を墳墓の地を期せん人聞到る処青山有り」  
詩意は読んで字のとおりで、分り易い詩であ  
る。なほこの詩を選ぶかと申しますと、私の  
境遇が類似しているからである。戦後の農家  
の八男坊である私には当時は、故郷には不用  
の存在で、家を飛び出し職を求めざるを得な  
い実情であった。立志し若くして故郷、或る  
職で終戦まで来たが失業し、その後数度職を  
変え、現在の職について三十年になろうとし  
ている。これで学業成りとは申せませんが、  
一応安定して生活を続けられる幸福を、喜び  
おる次第です。青山も兼山町長柄の山腹に求  
め、骨を埋むるを待つばかりである。よく宴  
会等で、この詩を吟じますが、吟じ終ると心  
がすかっと晴れて実に心地よい。この心境は  
現在の若者には通用せず、嗤われることであ  
ろうが、漫吟の詩文ではないが、汝の嗤うに  
任して、私は死するまでこの詩を吟じ続ける

所存である。(逗子A支部 常任理事)

### 会員の異動

#### 新会員

沼間支部 川原 政雄 (電) 七三二五八五

一色B支部 小栗 正子 (電) 七五二四六〇七

寺脇宇太郎 (電) 八三三六七

#### 退会々員

40 沼間支部 松岡 翔風

309 松和支部 小池 秀

赤羽 恭子

浪辺 フク

167 堀内支部 清田 珠山

住所変更

67 堀内支部 長野 淑風

新住所 横須賀市秋谷二二五 戸丸方

(電) 〇四六八一五六―八〇一五

165 建設支部 竹重 訓山

新住所 葉山町一色七三四―四

(電) 七五一 八二六〇

第十二回 葉山町文化祭

詩吟・詩舞の会

とき。十一月三日(木) 十時～四時  
ところ。葉山町福祉会館

第二十七回 逗子市文化祭

詩吟 詩舞 発表大会

とき。十一月二十日(日) 十二時半～四時半  
ところ。逗子市図書館ホール

逗子地区温習会

とき。十二月四日(日) 十時～三時半  
ところ。逗子市図書館ホール